

東光寺たより 42

文責 “東光寺”英隆

おかえりなさいのコンサート

住職の尺八の原点は京都花園大学に在ります。在学中は大学の邦楽部で尺八を吹いておりました。12月中旬に此度大学の邦楽部に於きましてOBを中心に表記の演奏会を開催して大勢の人が集まりました。住職も忙しい合間をぬって吹いてまいりました。何を隠そう住職のお爺さんも此処で尺八を吹いていました。言わば、お爺さんに敬意を払って献じた尺八の音でした。最後にこの演奏会を企画した関係各位に御礼を申し上げます。



今年最後の炭焼き

当山の炭焼きの活動は月曜に展開しています。活動も色々多岐に渡り、今年も炭焼きメンバーの皆さんには色々とお世話になりました。折しも門松を建てる竹を切り出すもしくはいつもの竹炭を作る工程でしょうか？大きな竹を段取りよく切る姿を見て感服した住職でした。活動を色々と支援してきた住職は来年の皆さんの活動も変わらず支援していく所存です。よろしくお祈りします。



ご先祖さま

当山の檀家さんより地元の仏像の由来等をまとめたレポート及びご先祖さまという手記を拝受しました。仏像のレポートに関しては去る 12/7 に地元の七郷という地域の資料館で発表が有ったようで住職は法事と被りまして行く事が叶いませんでした。さて今回のレポート及び手記を拝読しまして今自身が生かされている力というのは何も現存しているサービス。所謂社会サービスであつたり親兄弟に依る所も多大ではありますが、様々な艱難辛苦を目に見えない力添え、つまりご先祖さまが護って下さった事が有難かったと・・仏壇に手を合わせて感謝を捧げたと綴ってありました。住職は常日頃、目に見えない無形の力というのは大事だよ。そういったモノが今につながっているのだよと説いております。大事にしてゆきたいと再確認いたしました。

大事にしてゆきたいものですね



會の合間にマイクを渡され懐かしい思い出や今に通ず

る道のりが決して平坦でなく苦しい事もありましたが感謝

を述べた住職でした。

今年最後のお葬式

2025 年は年が明けるとなり住職にとりましてご縁が深かった後輩の訃報から始まり大勢の方の訃報を受け取る事となりました。中には訃報を受け取りながら先方よりお参りを辞退される事案もございました見送る事が叶わなかった事も併せてございましたが、関わったお弔いには向き合えた事切なりと存じます。

2026 年も関わる事切なりです

どうぞよろしく申し上げます

大垣勝山斎場からの景色



里芋の供養

篤信の檀家さんから里芋を供養していただきました。お寺はこうした供養で成り立っている部分が多く、こうしたお野菜等は必ずお供えしてから調理するのは申し上げるまでもありませんね。このお野菜がここに来るまでのすべてに感謝し、自分の生き方をふり振り返り、心を整えて調理して、体と心を養い、自分の“志”のためにこのお野菜をいただきたいと思います。



今年最後の法事

故人の 13 回忌に赴く住職です。故人に対する思い出が物凄く多い方であります。とりわけ故人は民謡で謡う傍ら御詠歌も詠う方で当時は若干、御詠歌ではちと違うなと感じたりもしましたが、本人のまっすぐな姿を思い出した住職。色々な姿が有って良いじゃないか。どの花見ても綺麗だったよなど懐かしみ、法事の後を後にしました。こうして 2025 年最後の法事は幕を閉じました。お申し出の有った全ての法事は無事に対応できました。難有い事と思わずにいられない住職は来年に眼を向けるのでした。



今年最後のお葬式 2

クリスマスを経に今年もう無いでしょうと思った住職でしたが、その直後に訃報の電話を受け取りカレンダーで友引はいつだ？と確かめるのです。訳有って住職が弔うのでありますが、故人は紆余曲折有った事は、推察する事難くなく建築士の力量を活かして当山の本堂を立て直す時は自分に設計させて欲しいと。事実、寺の本堂を立て直す事案も生前中は取り扱った事も有るみたいでした。懇ろに弔ったのは言うに及ばず、黄泉の道安穩らん事を

